

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人きょうと福祉ネットワーク一期一会

②評価調査者研修修了番号

SK18140
26-044
第23福祉-3

③施設名等

名称：	児童養護施設 青葉学園
施設長氏名：	西山明美
定員：	45名
所在地(都道府県)：	京都府
所在地(市町村以下)：	亀岡市稗田野町太田高星7
T E L：	0771-22-0651
U R L：	http://aobagakuen.server-shared.com/
【施設の概要】	
開設年月日	1949/4/1
経営法人・設置主体(法人名等)：	社会福祉法人 青葉学園
職員数 常勤職員：	26名
職員数 非常勤職員：	14名
有資格職員の名称(ア)	保育士
上記有資格職員の人数：	
有資格職員の名称(イ)	教員
上記有資格職員の人数：	
有資格職員の名称(ウ)	栄養士
上記有資格職員の人数：	
有資格職員の名称(エ)	調理師
上記有資格職員の人数：	
有資格職員の名称(オ)	
上記有資格職員の人数：	
有資格職員の名称(カ)	
上記有資格職員の人数：	
施設設備の概要(ア)居室数：	8室
施設設備の概要(イ)設備等：	地域交流スペース、親子訓練室など
施設設備の概要(ウ)：	
施設設備の概要(エ)：	

④理念・基本方針

<p>【青葉学園指導理念】 〈青葉学園の事業や計画の中で最も大切にしなければならない根本的な考え方〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの個性や人格を尊重し、子どもの最善の利益を擁護する養育に努めること。 2. すべての子どもは社会全体ではぐくむという社会的養護の理念のもと、子どもの自立と家族の再統合を支援すること。 3. 法人創立時の仏教における慈愛の精神をもとに社会福祉活動を行い、地域社会への奉仕と社会貢献に努めること。 <p>【基本方針】 (理念に基づく具体的な処遇の基本となる考え方)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども一人ひとりの願いや思いに真摯に向き合い、愛着関係や信頼関係に基づいた支援を行うこと。 2. 子どもに対する体罰・性加害・暴言等の不適切な言動は絶対に許されない人権侵害との認識を持つこと。 3. 子どもの安全と安心できる生活が守られる生活環境を整えること。 4. 子どもが健全で豊かな心身をはぐくむ食育を推進すること。 5. 子どもと親や家族との絆を大切に、家族の再統合に向けて支援すること。 6. 地域の理解と協力を感謝し、地域社会への貢献に努めること。
--

⑤施設の特徴的な取組

- ・より家庭に近い雰囲気の中で生活できるように配慮し、少人数の児童をよりきめ細かく養育指導し、家族再統合や自立のための支援を行っている。必要に応じて、心理療法士と児童養護職員が連携を行っている。
- ・フットサル大会（芝桜カップ等）や地域ヘグラウンドを開放して地域の方々とのつながりも大事にしている。また、芝桜の会（隣接する敷地に芝桜の広場を実現するための会）を設立して地域を巻き込んだ取り組みや地域のニーズを踏まえショートステイ、トワイライトステイの受け入れを行っている。
- ・青葉学園後援会である「京都青葉の会」による支援活動のひとつとして「就学支援金貸与制度」があり、進学の一助となっている。
- ・養育・支援について各棟における児童会活動など子どもの意見を大切にするとともに、また、外部委員で構成される運営審査委員会を年2回開催し、質の向上に努めている

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2023/10/10
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2024/12/24
前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和3年度

⑦総評

◆特に評価が高い点

○地域との交流、地域貢献

「運営要綱」に「青葉学園指導理念」を掲げており、内容に地域との関わり方の基本的な考え方を明文化しています。秋の町民運動会、夏祭りなど、地域行事に積極的に参加するようにしています。子どもたちや職員は積極的に日常的な地域との繋がりで、挨拶をするようにしたり、子ども会に職員が役員として参加しています。また、ボランティア「芝桜の会（隣接する敷地に芝桜の広場を実現するための会）」、「京都青葉の会」とのかかわりやグラウンドや芝桜広場を地域に開放したり、フットサル大会を継続的に行い、地域との交流を深めています。地域のニーズに対してはショートステイ、トワイライトの受け入れを行うとともに、要保護児童対策協議会にも参画し、ケース対応にも対応しています。

○子どもの意向や主体性への配慮

生活全般に対して、日常的に子どもと話し合いながら信頼関係の構築に努めています。職員の姿勢として「待つ」ことや子ども達が自ら「考える」ということを大切にしています。子どもから出てきた意見を大人が側面的に支援をしてルール化することもあります。行事への参加も子どもの希望を優先しています。行事やフットサルの中で、目標を立てて、実践させることでお互いに協力し合う姿勢や自発性が育つように配慮しています。

◆改善が求められる点

○事業計画の策定 「家庭の養護の推進計画（R2～R6）」を立案し、これに基づき、6つの小規模園化を完成しました。また、令和6年度に見直しを行い、令和7年より定員の見直しを計画しています。しかし、計画の具体的な成果や数値計画が策定できていませんでした。中期計画の策定とあわせて検討されることを期待します。

○総合的な人事管理 「行動規範」として、期待する職員像を明確にしています。また、入職後は各棟にて実務経験を得ながらキャリアを積み、各棟の主任が課題を把握して研修計画につなげています。しかし、しかし、職員一人ひとりの目標設定がされてなく、明確なキャリアパスとして、文書化及び体系化がされていませんでした。一定の人事基準に基づき、職員が自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりを検討されてはいかがでしょうか。

○子どもの養育・支援に関する適切な記録 「施設運営援助指針」に「個人情報の保護について（遵守事項マニュアル）」が整備されており、保管や持ち出しについて一部記載されています。しかし、文書規程が無く、記録の保存、廃棄、開示について整理して定められたものが確認できませんでした。また、個人情報保護規定は策定されていますが、個人情報の開示についての規定がありませんでした。法人のリスク管理の観点からも規定の整備が望まれます。

◇その他

○業務マニュアルや危険・事故発生時の対応マニュアルなどの定期的な見直し

○感染症及び災害時における「事業継続計画」（BCP）の策定

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
【コメント】		
理念はホームページに掲載している。また、理念、基本方針、職員行動規範が運営要綱に記載されている。年度初めの職員会議で職員に配布し、説明している。保護者には、関わりが難しい方（虐待ケースなど）もいるが、「青葉のしおり」を用いて説明している。子どもに対しては入所時に青葉のしおりでかみ砕いて説明を行うことや各棟の児童会等で権利ノートも活用して説明を行っている。		

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	<input type="radio"/>
【コメント】		
全国的に動きには、全国・近畿・京都の児童養護施設協議会から情報収集をしている。全国・近畿・西日本のセミナーに参加し、動向を知る機会としている。把握した情報は、職員会議で全員に伝えている。近畿児童養護施設、南丹市・亀岡市の要保護児童対策協議会の委員にもなっており、情報把握や行政との意見交換をしている。子育て短期支援事業の代表委員をしている。亀岡市の子育て委員をしている。入所状況の把握は毎月、子ども家庭支援センターへ報告している。		
②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	<input type="radio"/>
【コメント】		
現在は人材確保が一番の課題と捉えており、1つの棟を開けられない状況がある。人材確保の対策として、養成校に出向きアピールと実習依頼があった場合には、積極的に受けるようにしている。ハローワークへの求人募集や福祉就職フェアに積極的に参加している。役員会でも検討しており、外部委員で構成される運営審査委員会にも助言をもらっている。全体職員会議を月1回・運営会議月1回（各棟の担当主任の2名、給食担当など）・主任会議を随時実施しており、運営に関する会議をしている。法人の役員会において、財務状況や人材確保、運営について検討している。		

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	
【コメント】 「家庭的養護の推進計画(R2~R6)」を立案し、これに基づき、6つの小規模園化を実践した。令和6年度に見直しを行い、令和7年より定員の見直しを計画している。計画の具体的な成果や数値計画が策定できていない。長期計画は立てられているが、中期計画になっていないため、内容の見直しをする必要があると認識している。		
②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
【コメント】 「令和5年度青葉学園施設運営計画」を策定しており、多岐に渡る内容の計画となっている。しかし、内容について、抽象的な表現となっており、具体的な内容の明記がなく、評価がしにくいものであり、改善が必要である。		
(2) 事業計画が適切に策定されている。		
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	○
【コメント】 事業計画立案にあたっては、前年度の評価をふまえ主任が各棟の職員に聞き取りを行い、主任会議や運営会議で共有をし、施設長が作成している。4月に役員会に報告するとともに、職員に事業計画について説明をしている。しかし、事業計画の中間見直しはできていない。中間振り返り含め、仕組化が必要である。		
②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	
【コメント】 各棟の児童会を開催し、分かりやすくして説明している。年間行事については、棟毎に子どもの意見を聞きながら立案している。保護者には、虐待ケースなど直接のやり取りができないケースもあり、関わりの中で徐々に伝えるようにしているが不十分と認識している。※広報誌を送り続けることもひとつの方法ではないか。広報誌に施設の取り組み状況について掲載しても良いのではないか。		

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	
【コメント】		
外部講師を招き、ケースへのアドバイスを受ける機会を設けていた。(コロナで休止)施設内での勉強会実施を検討しているが、計画にまで落とし込めていない。虐待・権利擁護について、全社協の様式を活用して虐待防止にかかるチェックリストを年2回実施している。集計までできていないため、全体的な評価を職員に伝えられていない。集計したものを基にした研修の仕組みを構築するなど検討してはどうか。第三者評価は定期的に受診しているが定められた評価基準に基づく自己評価を行う仕組みが作れていない。		
②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。		
【コメント】		
具体的な取り組みとして、「施設運営援助指針」で個人の通帳管理の方法を整理して規程したことなど、随時、改善している状況はあるが、計画的ではない。会議で優先順位を決めて見直し、文書化するなど課題を明確にする必要がある。		

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	
【コメント】		
「運営要綱」「組織規程」に施設長の役割が明記され、組織図が掲載されている。施設長交代時には、対外的にハガキで周知している。広報紙に施設長交代時には挨拶文を掲載している。「運営要綱」に「危機・事故対応フローチャート」などが明記され、緊急時の対応、指示命令系統が明確となっている。しかし、施設長不在時の代理者を明記したものがない。		

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

物品購入時には、経理規程に沿って相見積もりを行っている。法令に関する知識は、集団指導や全養協・施設長研修等において情報を得るようにしている。食品衛生法に関することは、現場職員と一緒に受講している。必要な情報は職員会議や回覧等で周知している。虐待防止にかかるチェックリストを年2回実施している。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

朝の朝礼で日々の各棟の様子を施設長は把握している。管理者は各会議にも参加し、職員の声を聴くとともに必要に応じてスーパーバイズを行っている。職員面談は定期的にはできておらず、随時に面談することがある。棟会議の中で話したことは施設長に伝えるようにしている。研修は体系化して計画的にまんべんなく職員が参加できるように配慮している。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

毎月、行政報告を行っている。課題となることを把握し、統括主任と事務で対応策の検討を行っている。光熱費の削減について、会議で発信するようにしている。棟毎の新しい物品購入の際には、子どもにも大事に使うことを発信するよう、職員に伝えている。児童記録の負担軽減のため、ソフト活用を検討しており、事務と主任・統括主任が業者と折衝中である。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	
	(社会的養護共通)	
	<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○
【コメント】		
「施設運営計画」に人材の確保と職員の育成について明記している。「運営要綱」に職員行動規範や専門職の配置・人員体制について明記している。また、小規模化、家庭的養護の推進に向けた人的配置等について検討を行っている。家庭支援専門員、個別対応職員の配置などしている。人材確保について、計画的に採用する仕組みが作れていない。保育士養成連絡協議会とのルートを活用して新規採用に取り組んでいるが効果的なものとなっていない。		
②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができている。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○
【コメント】		
「行動規範」として、期待する職員像を明確にしている。京都府福祉人材認証制度を取得するための動きを開始している。しかし、人事考課制度が導入されておらず、昇進、昇格に対する明確な基準が設けられていない。また、明確なキャリアパスとして、文書化及び体系化がされていない。		
(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○
【コメント】		
職員の就業状況は、施設長と事務で把握している。有給簿を整備し、職員が把握できるようにしている。メンタルヘルスの取り組みとして、心理士がいるため、空き時間に職員も相談できるように呼びかけており、心理士から空き時間を伝えるようにしている。民間の生命保険に加入し、カウンセリングの機会があることを職員に周知している。就業規則にハラスメントについて明記している。民間社会福祉施設職員共済会に加入している。産休・育休取得の規程がある。取得に関しては、休暇を取ることがお互い様である風土づくりがある。手当の見直しをしており、給与の増額、初任給の見直しに取り組んでいる。		

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

「行動規範」として、期待する職員像を明確にしている。しかし、職員面談や個人の目標管理をする仕組みがない。京都福祉人材育成認証制度の認証を得るために、コンサルティングを受けながら、仕組づくりに取り組んでいるところである。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

「運営計画」「行動規範」に期待する職員像を明確にしている。年度ごとの研修計画の方針を立て、職員個人ごとの研修実績を記録している。研修計画策定の手順も含めて見直しする予定がある。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	<input type="checkbox"/>
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

正規職員23名おり、職員の資格取得状況の把握は、資格者証の複写を施設長が保管している。今後、資格取得や必要な研修受講について、一覧にしておくことが望まれる。OJTの仕組みについては、棟ごとに先輩職員から後輩に伝えるようにしている。必要に応じて、施設長からの指導や職員研修の機会を設けている。外部研修については、職員が学びたい研修を受講できるようにしている。施設長や統括主任からスーパーバイザーの役割を担っている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

保育士養成課程の実習を受け入れている。(大学、専門学校、短期大学)「施設運営援助指針」の中に「実習受け入れについて」を明文化している。学生には、「オリエンテーション」「日課表」の資料を作成し、それを見ながらオリエンテーションをしている。実習受け入れに当たっては、職員全員で対応するため、職員向けの受け入れマニュアルを作成している。保育士養成校の受け入れ向けの実習担当者向け研修が開催されており、受講している。養成校からの巡回指導があり、担当教員と話す機会がある。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

第三者
評価結果

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

ホームページで施設の運営方針、財務状況など様々な状況を公表している。苦情内容について、第三者に公表する仕組みがない。公表していない、機関紙である「青葉」は、後援会や支援している方々、小学校、中学校などの関係機関に配布している。(年2回)地域に向けてはイベント案内等もやっている。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

「経理規程」を整備しており、内部監査の仕組みがある。経営コンサルタントと契約し、予算立案の際など必要に応じてアドバイスをもらっている。また、随時相談ができる仕組みがある。最近では、高齢者雇用についてアドバイスをもらう機会があった。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	<input type="checkbox"/>
	(児童養護施設)	
	<input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
「運営要綱」に「青葉学園指導理念」を掲げており、内容に地域との関わり方の基本的な考え方を明文化している。秋の町民運動会、夏祭りなど、地域行事に積極的に参加するようにしている。子どもたちや職員は積極的に日常的な地域との繋がりで、挨拶をするようにしたり、子ども会に職員が役員として参加している。芝桜広場の育成を地域住民やボランティアとともにし、地域に開放している。地域の商店に衣類や菓子類の買い物に行くようにしている。中高生は自転車で自分で買い物へ出かける。道の駅ガレリアでの催し物や図書館へ出かけるなどしている。子どもの学校の友人が遊びに来所し、グランドやホール（コロナ禍は休止）で遊ぶことがある。		
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
本の読み聞かせ、中華料理の奉仕活動、芝桜のお手入れのボランティアを受け入れている。ボランティア受け入れ前には、留意点などを説明するようにしている。芝桜のボランティアには、保険について説明している。しかし、ボランティア受入マニュアルが整備されていない。		
(2) 関係機関との連携が確保されている。		
①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
「運営援助指針」に「救急対応マニュアル」が整備されており、関係防災情報一覧、児童相談所、病院一覧など、必要な情報を掲載している。指針は、各棟に設置され、職員が閲覧できるようになっている。要保護児童対策協議会、児童相談所に提出する自立支援計画書、子どもの状況についての情報交換の機会がある。亀岡市の子育て環境についての情報共有などを行う会議が年1～2回開催され、参加している。ショートステイ利用について、要保護家庭についての情報交換、地域での関係者会議に職員が参加している。障がい者支援では、サポートセンターを活用して、担当者で連携している。		

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	<input type="radio"/>
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通じて、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	<input type="radio"/>
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	<input type="radio"/>

【コメント】

芝桜広場開放やホールの開放をしている。ショートステイの受け入れを行っており、土日など相談員と繋がらない時には、施設に直接連絡があり、対応している。民生委員の方とは、要保護児童対策地域協議会を通じて顔なじみになることもある。民生委員の方に施設見学に来てもらい、施設の理解を得るようにしている。ショートステイは、週1回月4回の利用もあり、リピーターが多くニーズはある。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

芝桜公園で、「芝桜カップ」というフットサルのイベント機会を施設が行い、交流の企画している。グラウンドを使用してもらえるようにしている。施設内のグラウンドを地域に開放している。今後、ホールの図書も使用できるようにしていきたい。職員2名が亀岡市の防災委員の研修に参加している。BCP策定に向けて、備蓄などの協力もできる体制にしている。AEDが施設にあることを地域に伝えている。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。 <input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。 <input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	a ○ ○ ○ ○ ○
【コメント】 「運営要綱」に子どもを尊重した養育・支援の実施について明示している。「施設運営援助指針」に職員の基本原則や行動規範などに明記している。年度始めに基本的人権について話している。性教育について、大学の教員に来てもらい、勉強会を実施した。児童養護施設における人権擁護と人権侵害の防止のためのチェックリストを活用している。		
②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。 <input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。 <input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。 <input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。 <input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	a ○ ○ ○ ○
【コメント】 「指導運営援助指針」に行動規範においてプライバシーに触れている。年度初めの児童会で子どもの権利ノートを用いて統括主任より、自身のプライバシーについて説明をしている。女子棟の内部が見えないように配慮をしている。		
(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。 <input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。 <input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。 <input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。 <input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	a ○ ○ ○ ○ ○
【コメント】 パンフレットを見学や入居される際に渡し、説明している。入居時には、「青葉のしおり」を準備し、子どもへの説明をしている。年齢の高い子どもには、事前に見学してもらうように声掛けしており、その際に生活について説明をしている。年度末に説明資料を見直すようにしている。		

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

子どもが主体的に選択できるように事前に説明するようにしている。施設でのルールを伝えたと上で児童相談所から同意を得てもらうようにしている。保護者にもできる限り見学に来てもらえるように伝えている。一時保護所に施設職員が出向くことがある。「青葉のしおり」にはルビを打ち、子どもが読めるように配慮している。知的障害など、理解が難しい方には、援助者へ説明したり、入所後に不明なことは聞いてもらうように伝えている。年齢やケースに応じた対応をしている。外国籍の子どもや親など、必要に応じて支援者などに入ってもらい理解を得られるように配慮している。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【コメント】

措置変更については、児童相談所と連携をして対応をしている。移行先とは関係者会議を行うなど不利益が生じないように配慮を行うとともに施設での生活の様子などを記載して、文書で引継ぎをするようにしている。退所後に連絡して来ても良いことを伝えている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○

【コメント】

嗜好調査は実施しているが、暮らしに関する項目の聞き取りやアンケートの実施ができていない。棟ごとに、職員が子どもの面談を実施しており必要に応じて、施設長も入ることがある。児童会を毎月実施している。それ以外にも出来事が起こったり、行事前にも実施している。意見箱を各棟に設置しており、施設長が収集に回っている。内容によって、個別に子どもと話すこともある。調査、分析をする仕組みづくりが課題である。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>

【コメント】

苦情受付担当者について定めており、施設内に掲示している。「苦情解決処理規程」を整備している。保護者からの苦情は、直接電話連絡で申し出ることが多い。入所時に何かあれば、意見の言えるハガキを渡しており、それで出してくる子どももいる。誰に何を申し出て良いことを常に子どもに伝えている。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

「権利ノート」、「青葉のしおり」に困ったことや相談したいことがあれば、話せることが記載されている。子どもの権利ノートは、幼児用と小学生以上用がある。棟の相談室や棟から離れた場所など、相談内容に応じた場所を設定して相談に乗るようにしている。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	

【コメント】

職員との関係性の中で、その場で話してくれることが多い。職員間のライングループを設けており、その中で相談し合うようにしている。相談しにくい子どもには、就寝時に2人きりになる時間に話してくれることもある。棟にいる職員が苦手な場合には、他の棟の職員に話しても良いと伝えているため、他の棟の職員から聞く話もある。冗談を子どもと職員で言い合っており、時にはあだ名で呼ぶなどして、話しやすい関係性の構築を意識的にしている。棟毎に意見箱を設置している。意見への回答に時間がかかる場合には、子どもに伝えるようにしている。しかし、手順等を定めたマニュアルが整備されていない。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	
【コメント】 「運営要綱」に「危機・事故対応フローチャート」が掲載されている。棟毎にヒヤリハットを集める取り組みをしているが、施設全体として事故・ヒヤリハットについて分析・検討する委員会の設置、リスクマネジメントに取り組む仕組みが整備されていない。児連協の研修で、水辺や野外活動での留意点についての研修に職員が参加し、伝達研修をしている。また、救急救命の研修を受講している。		
②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直ししている。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○
【コメント】 「施設運営指針」に「感染症対策」のマニュアルを整備している。嘔吐の場合の実最適な対応研修を行った。「新型コロナウイルス感染症対策」として、対応マニュアルは別に整備している。防護服の着脱、消毒の方法など、シミュレーションを含めた研修を実施した。職員は、ノロと細菌の検便を行っている。コロナ疑いがある場合には、空室となっている棟に隔離するようにしている。		
③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決めている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決まられ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○
【コメント】 「施設運営援助指針」に「防災マニュアルが整備されており、「災害時の対応・体制」が定められている。BCP計画の策定は策定中である。その日に出勤している勤務者が子どもや職員の安否確認をするようにしている。職員は棟毎や主任だけのライングループがある。栄養士が備蓄・備品の管理をしている。		

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	
【コメント】		
「施設運営援助指針」に「生活支援（指導）の実際」として、それぞれの支援の留意事項について明記されている。しかし、活用方法、指導方法の仕組みができていない。		
②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	
【コメント】		
養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しは年度末に行っているが、見直しの時期や方法が明文化されたものや仕組みがない。		
(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員（種別によっては施設以外の関係者も）が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員（種別によっては組織以外の関係者も）の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○
【コメント】		
自立支援計画は、入所後に児童相談所との連携により策定をしている。児童相談所が作成する援助指針を基に、施設職員の会議で意見を出し合い検討している。会議録に支援計画を作成するにあたっての話し合いの内容を記録している。（アセスメント）支援困難ケースについては、児童相談所と連携を密にしている。		

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

自立支援計画の評価、見直しは年2回行っている。見直し時期や参加職員について、「施設運営援助指針」内に「児童記録から児童自立支援計画に向けて」という項目に明確に定めている。自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みがあり、必要に応じて児童相談所や学校・関係機関と協議を行っている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

記録様式は統一した項目で記録をしている。幼児は毎日記録し、小学生以上は何かあった際に記録している。記録した内容を次の自立支援計画に反映するようにしている。1ヶ月の記録の最後に評価を記載するようにしている。社会福祉協議会が主催する記録の書き方研修に参加するようにしている。毎日の朝礼やラインで、出来事についての引継ぎがあり、情報共有している。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

「施設運営援助指針」に「個人情報の保護について(遵守事項マニュアル)」が整備されており、保管や持ち出しについて一部記載されている。しかし、文書規程が無く、記録の保管保存、持ち出し、廃棄、開示について整理して定められたものが無い。入所当初に写真掲載など、個人情報の利用について説明している。

内容評価基準（24項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果
<p>① A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>「運営要綱」の指導理念や職員行動規範に子どもの権利擁護について、職員の理解が得られるよう、明文化している。棟の会議で規程、マニュアルについて周知している。虐待等防止のチェックリスト（年2回）を行っている。思想・信教の自由について配慮している。</p>	
(2) 権利について理解を促す取組	
<p>① A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/>職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。</p> <p><input type="checkbox"/>年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>縦割りでも棟での生活をしていることで、年下の子どもへの配慮が生まれている。年度始めの児童会で「権利ノート」を活用して子どもに権利の理解について説明している。性教育の研修会の際に、子どもの権利について触れる機会があった。</p>	
(3) 生い立ちを振り返る取組	
<p>① A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生い立ちを振り返る取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/>伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。</p> <p><input type="checkbox"/>事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりに成長の記録（アルバム等）が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生い立ちの整理に繋がっている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>子どものそれぞれの個別の事情を誰がどのタイミングで伝えるかを児童相談所と連携して検討している。職員との関係性で考えたり、伝えた際の子どもの様子を児童相談所と共有し、記録している。子ども一人ひとりのアルバムを用意している。折にふれて、子どもによっては、アルバムと一緒に見ることもある。大きい子どもやプライベートな場所を持っている子どもは自分で保管している。</p>	

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

「施設管理規程」に入所児童虐待等の行為の禁止が明記されている。また、そのような行為があった場合のため、「就業規則」の処罰の項目で規程している。体罰という形で認定されたこともあり、児童相談所や京都府への報告を行い、適正に対応をしている。棟の中で何かあった場合には、誰にでも話して良いことを児童会や個別に伝えるようにしている。子ども自らが訴えることができるよう、「青葉のしおり」「権利ノート」に記載されており、説明している。しかし、通告した人に不利益が及ばないように明記した規定は無い。

(5) 支援の継続性とアフターケア

①	A5 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

入所時の不安については年齢や個別性に配慮している。(幼児は就寝時まで一緒にいるなど) 家庭復帰の際には、関係機関との連携を取りながら外泊回数を増やすなど、子どもの様子を見ながら段階を踏んで取り組んでいる。退所後に施設に連絡して良いと伝えている。

②	A6 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生時の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

退所後に一人暮らしをする場合は、生活費の使い方や洗濯の仕方など、自立に向けた支援を行っている。家庭復帰のリービングケアについては、新しい学校に馴染めるかなど、帰った時の生活を想定して一緒に検討している。貸付を受ける場合の担当者も設けている。生活の支援金を活用している子どもには定期的に連絡を取り合い、それを記録している。必要に応じ電話連絡や家庭訪問を行っている。退所した子どもが施設に帰ってきた時には、生活していた場で過ごすことがある。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果
<p>① A7 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。</p>	<p>b</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>
<p>【コメント】</p> <p>子どもが育ってきた養育環境や表出する言葉の背景などを理解し、個々に応じた対応をしている。子どもに寄り添う支援を心がけ、児童会や日々の生活の中で子どもたちの話を聞くようにしている。しかし、利用者アンケートの実施ができていない。</p>	
<p>② A8 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。</p> <p><input type="checkbox"/>生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。</p> <p><input type="checkbox"/>基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。</p> <p><input type="checkbox"/>夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。</p>	<p>a</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>
<p>【コメント】</p> <p>常に子供に寄り添う言動、行動に努めている。生活の決まりについても大人からの一方的なものにならないように配慮している。子どもから関わりを求めてきた際には時間をとって触れ合うようにしている。お正月などに、帰る子どもと残る子どもがいて、残る子どもの精神不安定になることがあるため、寄り添うようにしている。</p>	
<p>③ A9 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。</p>	<p>a</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>
<p>【コメント】</p> <p>職員の姿勢として「待つ」ことを大切にしている。職員がなるべく余裕を持ち、過干渉にならないことや失敗してもフォローができるように意識している。子ども達が自ら「考える」ということを大切にしている。行事への参加は子どもの希望を優先している。フットサルの中で、目標を立てて、実践させることで成長することがある。子どもから出てきた意見を大人がまとめてルール化することがある。</p>	

④	A10 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもが買い物に行きたいと思ったら、一緒に行って、お金の使い方を学んだり、電車の乗り方を学ぶ機会を設けている。語彙が少ない子どもには、日常の遊びの中で言葉が出やすい工夫をするなどしている。地域交流スペースには図書が設置しており、横のつながりができる機会となっている。フットサルチームを小学生で作っている。近畿児童養護施設の大会があり、優勝できるように練習している。週2~3回の練習をしている。

⑤	A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

日々の生活の中で基本的な生活習慣が確立できるよう支援をしている。フットサル大会などを通じて地域社会とのつながりや社会性を学べるように配慮している。冬場はインフルエンザ流行時期でもあり、大きい子どもは、棟の中でもマスクをしたり、体調が悪い時には、自室に入るなど、自身で体調管理をしている。タブレット学習が学校であるため、個別に持って帰り、宿題をしている。施設でも用意している。各棟でWIFI環境を整備している(時間管理している)。高校生は退所後の生活資金のこともあり、アルバイトをしている子もいる。

(2) 食生活

①	A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですぐに食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

小規模の生活空間で家庭的な雰囲気で食事提供をしている。年齢等によって食事時間が違うこともあるが個別対応をしている。月1回給食会議があり、嗜好について意見交換をしている。好き嫌い等に応じて、調理方法を工夫している。また女の子は、おやつづくりをしたり、興味を持って調理をしたり、職員の手伝いとして調理をすることがある。棟ごとに外食の機会も設けマナーが習得できるように支援をしている。

(3) 衣生活

①	A13 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

近隣のお店に、自身で買い物に出かけることがある。必要に応じて職員と一緒に買い物に行くなどの支援もしている。季節に合ったものやTPOに合わせた服装ができるように配慮している。アイロンがけなどの場面をリビングで見ることができる。

(4) 住生活

①	A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

各棟で毎日の掃除や環境整備に取り組んでいる。自分で掃除ができるように支援している。子どもにもよるが、自分の部屋を掃除することもあれば、職員が手伝うこともある。夏と冬は大掃除をしている。棟によっては、生け花を職員が生けて飾っている。

(5) 健康と安全

①	A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

嘱託医と連携している。定期健診を実施している。インフルエンザは保護者の了解を得て、毎年予防接種をしている。慢性疾患等で医療にかかわる必要のある子どもは適切に対応している。発熱時には、必ず受診して子どもにあった解熱剤を使用するようにしており、解熱剤の使用方法や対応法について職員間で統一した対応ができるようにしている。

(6) 性に関する教育

①	A16 子どもの年齢・発達状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢・発達状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもに年齢に応じ、正しい知識を得られるよう個別に教育をするようにしている。性的な問題事象が生じることがあった場合には、児童相談所と共有し、ケース検討を行っている。性教育を行うための内容について意見交換している。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A17 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけて出そうと努力している。	<input type="radio"/>

【コメント】

言葉に出して伝えられない子どもが多いため、物に当たることも多い。自分が暴力を振るうつもりがなく、事象が起きる時もあり、叱ることだけではなく、子どもの背景を知るようにする。不適切な行動については日常的に意識しながら、顕著な場合は施設全体の職員で対応することを徹底している。対応する職員がしんどくなる場合には、少し距離を置くようにしている。子どもが一人にならないように、他の職員が対応するようにしている。

②	A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	<input type="radio"/>

【コメント】

他者や自分を大切にすることや暴力がいけないことであることについて、常に子どもには伝えている。年度初めに特に伝えるようにしている。学校でいじめアンケートが行われており、学ぶ機会がある。大人が気づく努力している。トラブルがあった場合には、クールダウンをする部屋を設けたり、子どもと一緒に考えるようにしている。

(8) 心理的ケア

①	A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

虐待を受けてきた子どもや思春期の子どもには、本人の意向を確認しながら、臨床心理士（5名配置）による心理的ケアを受けるようにしている。プレイセラピー50分と決まっており、自分のためにセラピーをしてもらえることが安心に繋がっている。12名がセラピーを受けている。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

小学校の学習支援（週1回）を受けている。一人ひとりに応じて学習できる環境づくり（塾通いなど）に努めている。また、タブレット環境整備が必要となり、整備を行った。「ことばの教室」に通う子どもがあり、職員が送迎をしている。

②	A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労（支援）しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	<input type="radio"/>

【コメント】

進路に関しては、本人の希望を尊重して話をしながら進路の自己決定ができるように支援している。身元保証や経済的な支援制度を計画的に利用している。アルバイトを本人が頑張っている、運転免許を取得できるように支援したケースがある。補助金として支援できる仕組みがある。

③	A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	<input type="radio"/>

【コメント】

施設として、就労のための実習先開拓や企業との連携は行っていない。学校から行っているところもある。子ども発達段階に応じて金銭の管理や使い方など経済観念が身につくように支援している。中学生においては、学校からの職場体験実習があり参加している。高校生においては、施設が直接職場体験を実施しておらずアルバイトの機会を通して社会体験を得ている。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	<input type="radio"/>

【コメント】

児童相談所と連携をし、家族関係性の構築に努めている。親権について保護者から相談を受けることもある。家庭専門相談員を配置しているが、自分の所属している以外の子どものについては、主任が中心となって調整している。一時帰宅は子どものケースによって実施することがある。青空棟があった時には、親子訓練室を作ったが、使用していない。親子がいる状況を他の子どもが見ることが悪影響となる場合があるため、訓練は取り入れていない。行事について、親に伝えることもある。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

親子の関係修復、再構築を一番の目的としている。児童相談所と連携を図りながら外泊回数を増やしたり、子どもとの対話や家庭訪問を行い、きめ細かく丁寧な支援をしている。